

会員が積極的に行事に携わることでつながりが深まるPTA活動の推進

下松市立下松中学校PTA

1 学校地域の概要

所在地 〒753-0005

下松市古川町2丁目1番1号

TEL 0833-41-0761

FAX 0833-44-3326

PTA会長 戸高 孝文

学校長 伊東 克典

生徒数 395名 (354家庭)

会員数 383名 (保護者 354名 教職員 29名)



下松市は、瀬戸内海に面した、海と山、歴史と文化、商業と工業と、バランスのとれた住みよい街として人気を集めている。下松市という地名の由来は、推古天皇の頃、鷲頭庄青柳浦の松の木に大星（北辰星ともいわれている）が降り、7日7夜光輝き「百済の皇子がこの地へやって来る」というお告げがあったことに始まり、それから3年後、百済からやってきた皇子が後の大内氏の祖とされる琳聖太子といわれている。このことから「星が降った松」が「降り松」、「下松」となったといわれている。

下松中学校は、全校生徒395名の中規模校で、一昨年度より、学校運営協議会、PTA組織、職員研修組織、生徒会を「知・徳・体」の3部会に分け、それぞれが横断的に連携をとりながら子どもたちの学びを支える取組が積極的に行われている。

2 PTA組織 ※PTA組織を含めた学校全体の組織図は別紙参照

会長：1名 副会長：4名 監事：3名 3部会部長・副部長：各1名

3部会部員：各7名

3 研究テーマ

本校は『自ら考え、ともに学び、志をもって未来を拓く下中生の育成』を学校教育目標に、地域とともにある学校づくりを推進し、保護者や地域の方の協力を得ながら、生徒の自己肯定感を高める教育活動を行っている。PTA活動では、「一人ひとつお手伝いボランティア活動」として、全家庭が年間最低1度は学校の教育活動に携わる機会をつくる活動が行われている。「無理なく、できるときに、できることを」を合い言葉に、各保護者が都合のつくときに少しでも学校に足を運ぶ機会をつくることができれば、学校の取組に、より理解を深めてもらうことができるのではないかという思いから始まったこの企画は大変好評で、多くの保護者とその成果を実感できている様子であった。

しかし、現在は、新型コロナウイルスの流行により、学校で行われる各種行事には様々な制限がかかっており、「一人ひとつお手伝いボランティア活動」においても中止や縮小といった対応をせざるを得ない状況となっている。

そんな中、もう一度、生徒・保護者・教員が積極的に行事に携わることでつながりが深まるPTA活動を復活させ、さらには、地域行事の縮小により失われつつある「地域の活力」にも目を向けた上で、「下松中学校に関わる全ての人に元気を与えるイベントを、下松中学校から発信できないか？」と考え、「くだコン夏祭り」と題した、おばけやしきイベントを企画し、実施するに至った。

4 活動内容

(1) くだコン夏祭りプロジェクト会議

イベントの実施にあたり、その実施母体となる「くだコン夏祭りプロジェクト会議」を立ち上げ、メンバーとして生徒会やPTA役員だけではなく、学校運営協議会委員にも参加を要請し、組織した。この会議では、下松中学校区でめざす子ども像である、「ふるさとを愛する子」「人も自分も大切に作る子」「挑戦し続ける子」を、このイベントをとおして育てたいという思いを常に念頭に置きながら、実施に関する様々な懸案事項について協議しながらイベントを進めていった。

(2) くだコン夏祭り実行委員会

生徒会評議員を中心とした生徒組織である「くだコン夏祭り実行委員会」を立ち上げ、実施計画の立案からイベントの演出に至るまで、ほとんど全ての活動に関わりながら活動した。会場準備に至っては、全校生徒からボランティアを募ったところ、約2週間の準備期間中、延べ250人近くの生徒が参加し、生徒会評議員の指示のもと、一生懸命活動している姿が各所で見られた。



楽しみながら準備する生徒たち

(3) PTAや地域との連携

イベントの準備については、PTAと学校運営協議会が、生徒が考えた演出に対して助言していくスタンスで活動に協力した。

しかし、おばけのメイクに至っては生徒だけでは難しいため、他の保護者の方に協力を呼びかけたところ、メイクを得意とする方から数多くの参加希望があり、本格的な「おばけメイク」を施していただくことができた。

このメイクにより、よりリアルな演出ができるようになった生徒はとてもうれしそうで、参加者をどうやって驚かせようかと思案する姿がとても印象的だった。



おばけメイクを楽しむ生徒たち

保護者の中には、「自分もおばけに扮して参加者を驚かせたい。」と、積極的に参加を希望される方もおられ、生徒たち以上にリアルなメイクを施されながら楽しそうに参加されていた。

学校運営協議会からは、会長がおばけ役として参加された。近年はコロナ禍で学校行事に参加いただく機会が減っていた中、衣装を担当する生徒と直接会話したり、演出担当の生徒から説明を受けたりして、これまでになく生徒と関わりを持てたことに喜びを感じられたようで、このイベントの開催意義の大きさを実感された様子であった。

参加者については、今回、小中連携の観点から下松中校区内の2つの小学校に所属する5・6

年生も参加可能としてアナウンスしたところ、小学校からは約106名、本校生徒を加えると、総勢約320名の生徒・児童がこのイベントに参加し、晩夏の夜に下松中学校で肝が冷えるゾクゾクする体験を楽しんだ。多くの参加者から来年の実施を熱望する意見も寄せられており、このイベントの中心となって活動した生徒会評議員の生徒は、自分たちの取組に自信をもつことができた様子であった。



工夫を凝らした演出

5 成果と課題

今回のイベント実施に際し、最大の課題となったのが感染症対策であった。誰もが安心してイベントに参加できるよう、この点について幾度も検討を重ね、万全の体制をとりながらの実施となった。また、今回は初めての開催ということもあり、準備期間や予算等での課題が数多く残されている。今後、このイベントが持続可能な形で末永く続いていくよう、これらの課題をクリアにしていかなければならない。

ともあれ、イベント実施のために頭を悩ませ、いろいろなアイデアを絞り出しながら一生懸命活動する生徒に寄り添いながら、保護者や地域が生徒と同じ目的に向かって活動できるこのイベントの存在意義は大きい。このような活動を今後も継続していくことで、これまで失われてきた人と人とのつながりを再構築し、学校・家庭・地域がともに支え合いながら生徒をよりよい方向へ導いていきたいと考えている。